

### 第3章

#### 学士課程の教育内容・方法等

のであり工夫して自己流を確立すべきものであることを説いても、学生はどうしたらよいか分からず、「板書の仕方が悪い」として授業への不満を抱くようになってしまう。これは中学、高等学校の教育に問題があることの証左でもあるが、入学生の多様化に即した個別的な指導が必要である。2005年度には「ラーニングセンター」が設立され、学修方法などの個別相談に乗っているが、そうした制度を利用しようともせず落ちこぼれていく学生は、退学する惧れのある学生でもある。自分で試行錯誤を重ねる意欲も習慣もなく、言われたことだけをしていれば良いという覇気のない学生にいかにして主体的な学修意欲を持たせるかが重要課題である。

**【課題・方策】** 英語のように学力別クラス編成をしている必修科目を別とすれば、多様な学力と学習態度の不特定の学生が履修する選択科目では、授業の照準をどこに合わせたら良いか迷うところである。文科系、社会系の授業では、日本史、世界史、古典文法などを履修していない学生が多いと授業が成り立たないので、学力の多様化がさらに進むようなら、将来的には基礎力に関する一斉テストを実施して、学力不足の学生には補習を行うなどの措置も必要になろう。高等学校で学ぶべき科目が未履修であったり、履修しても全く力がついていないような学生には、生半可な応用よりも基礎からしっかりやり直させる方が、就職試験のためにも結局は近道であるかもしれない。

ところで、大学での新しい学習方法に適應するか否かは、何よりも学生の意欲に因るところ大である。基礎からの復習と相俟って、学生が、投げやりな人生を送らずに、自分を大切にするような教育、自己と「今」という時をかけがえのないものと感じ使命感をもって生きる教育、ある意味では一層自己に執着して主体性と積極性をもって生きるような教育がなされなければならないであろう。そうした主体性や積極性は、理屈よりも、教師のちょっとした褒め言葉や教師から見つめられているという感覚によって促されることもしばしばである。それはひいては超越的な者に見守られている、というキリスト教信仰に通じるものでもあるゆえに、礼拝の共通テーマを設定するキリスト教センターとも連携しつつ、全学的に学生を守り育てる体制を整える必要がある。

### 3 カリキュラムと国家試験

#### 1) 人間福祉学科における国家試験の状況

(C群：国家試験につながるカリキュラムを持つ学部・学科における、受験率・合格者数・合格率)

**【現状の説明】** 聖学院大学においては、人間福祉学科に社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得できるカリキュラムが設定されている。学科開設以来の受験者数、合格者数及び合格率は以下の表のとおりである。

年 度	社会福祉士			精神保健福祉士			合 計		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
1998年度 入学生	27	5	18.5%	17	7	41.2%	44	12	27.3%
1999年度 入学生	21	4	19.0%	11	5	45.5%	32	9	28.1%
2000年度 入学生	20	4	20.0%	8	3	37.5%	28	7	25.0%
2001年度 入学生	16	1	6.3%	12	4	33.3%	28	5	17.9%
2002年度 入学生	38	18	47.4%	5	4	80.0%	43	22	51.2%

(受験者及び合格者とも現役のみ)

受験者のほとんどが資格取得を希望して入学してくるが、卒業時の現状は上記のとおりである。社会福祉士や精神保健福祉士の仕事内容を殆ど理解せずに、ただ資格を取得すれば就職に繋がると安易に考えている学生も少なくない。入試相談の段階から、この点については丁寧に説明している。さらに、1年次のオリエンテーションや「人間福祉総論」、キャリアガイダンス等でも、進路について詳しく説明している。

**【点検・評価】** 年度ごとに合格率が低迷化している。受験者数も98年度入学生から2001年度入学生にかけて漸減している。2002年度入学生に対しては学科をあげて合格者を増やすべく努力をした結果、初めて20名以上の合格者を出すことができた。この年には受験者数も過去最高となり、合格率も全国平均を上回る結果となった。しかし、入学者数に対する受験者数・合格者数は満足のものではない。

**【課題・方策】** 中学校時代から推薦入試方式に慣れ、試験を経験せずに入学する学生も増加している。試験によって結果が出ることに恐れを抱き、尻込みをする学生も少なくない。学生の将来を考えると、資格取得の重要性を認識させ、まず、国家試験受験生を増やすこと、さらに厚生労働省の指導基準に沿う範囲でカリキュラムの改革を実施し、国家試験受験生を増やす試みを始めなければならない。